

# 被ばく低減対策好事例集

場所		分類		番号	30-09
原子炉建屋内	RB	RB	7		
タービン建屋内	TB			2	距離
R ZONE	R			3	遮へい
Y ZONE	Y			4	線源の除去
G ZONE	G			5	遠隔、ロボット化
その他( )	Z			6	汚染拡大防止
				7	その他

内容 1号機原子炉建屋オペフロガレキ撤去工事に従事する作業者の被ばく均等化

作業場所 1F-1原子炉建屋他

概略 作業場所が複数・多岐にわたり、作業場所ごとに環境線量率の違いもあり作業者の被ばく均等化が困難であったが、被ばく量に応じた作業場所を変更する配員計画を作成・実施した結果、20mSv/年を超える作業者は皆無となった。

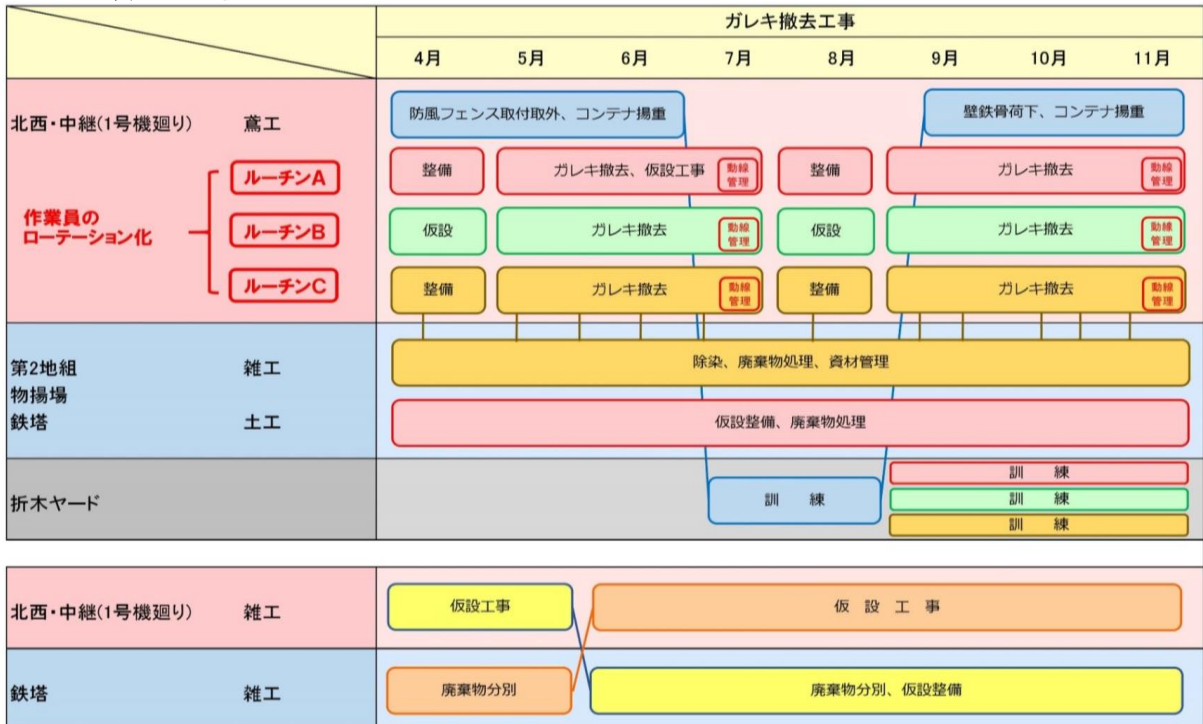
評価 (定性・定量)	効果	対策前		対策後	
		被ばく線量(mSv)	--	--	
		人工数(人日)	--	--	

事例詳細

**対策前** 慣れた作業者に被ばくが集中する傾向があり、20mSv/年制限に抵触する恐れが生じていた。

**対策内容** 作業者の被ばく線量をこまめにチェックし、被ばく線量に応じた作業場所を変更する配員計画を作成し、実施した。

### 配員計画の一例



#### ■うまくいったこと

- ①ALARA会議等で設定した低減対策は、放管と現場職員との共通方針として機能している。
- ②高線量作業域の中でも比較的線量の低い中継ヤードを使えたため、線量の低減に効果的だった。

#### ■今後の課題

- ①ローテーション化をしても、得意、不得意によって実際の作業手配が偏ってしまう。この結果、個人の被ばく量が均等に分散されない。→引き続き配員計画で対応
- ②機械の故障が多く発生したため、ルーチン作業が機能せず被ばく量に予想外の動きがあった。
- ③作業員の動線管理を決めたが、職員が動線管理と異なる作業指示をしてしまい、退避時間中に高線量域での作業をさせるケースが繰り返し発生してしまった。→引き続き介入の実施